

所報

No. 23

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 09526-2-5211

もくじ

◦ 教育環境に思う	教育センター研修一課 課長 岩村 政浩	… 1
◦ 公開講座・講演要旨	「ほんものの教育を求めて」	
◦ 「通知表」について考える		… 7 ~ 8
◦ 夏休みあけの教育相談を		… 9 ~ 10
◦ 研修講座に参加して		… 11
◦ 指導の着眼点・工夫（中・社）		… 12
◦ 中学校での大縮尺図の読図指導のポイント		… 13 ~ 14
◦ 英語指導の着眼点・工夫（中・英）		… 13 ~ 14

教育環境に思う

研修一課課長 岩村政浩



A校につとめていたときのことです。勉強をなまけて成績が悪くなった子どもを叱った親に「成績が悪いのは遺伝だからしかたがないよ。」と、その子は平気で答えました。

遺伝というものが、親から子に伝えられる生物学的遺産であるとすれば、遺産の多い人もあり、少ない人もあることは当然で、この意味では、その子の答えは一見正しいかのように見えます。しかし、次のようなことから、この答えは間違いであることがわかります。

双生児のなかに一卵性双生児というのがあります。これは1個の受精卵が、発生のはじめに均等な2個の細胞に分裂し、それぞれが個体として育ったものです。

そのため、この双生児は、遺伝的には全く等しい素質をもっていることになります。

このような一卵性双生児の一人をB市に養子にやり、他の一人はC村の生家で育てた場合の報告があります。

それによりますと、B市では徹底的に学力向上のための教育をし、C村では特別な教育はないで、極めてのんびりと育てられました。

環境は人をつくるといわれておりますが、この二人は、それぞれ、全く異なった持味の人間に成長したのです。

つまり、遺伝的素質は同じであっても教育、

その他の環境の違いによって現れる特徴には、大きなひらきがあるわけです。

そこで、児童生徒の教育環境を学校に限ってみますと、自然を含めた校地と、これをとりまく近くの地域社会、校舎、諸施設等物的なものと、その学校の教職員、児童生徒等人的なものが考えられます。

これらの整備された教育環境は、豊かな人間性を育てるための要素として、絶えず児童生徒に作用し、彼等もまた、それに反応を示します。つまり、児童生徒の行動は、彼等と環境との関数関係の形で現れるものです。

それだけに、児童生徒の学習面や生活面を刺激し、好ましい行動を誘発するようなダイナミックで、しかも動的な教育環境の構成が必要とされるのです。

その具現化のためには、教師の創意工夫と実践力が決め手であり、また、児童生徒にとっては、素晴らしい教師にめぐりあうことによって大いに啓発されるというものです。

このことはJ・ジューイが、その教育環境説の中で、教師という人的環境の重要性を強調していることからもうかがわれます。

このような意味からも、まさしく「教育は人なり」であり、この言葉の持つ重味に感じ入っている今日この頃です。

—公開講座・講演要旨—

『ほんものの教育を求めて』

姫路学院女子短期大学 講師

東井 義雄

もえさしの人生を
どう生きるか

ちょうど11年前になります。師範学校の同級生の太田正一君という校長が、個人文集を送ってくれました。

その文集の名前が「蠟」です。字引きでみると「もえさし」とあります。開いてみたら、「私は、57才の誕生日を迎えた。近ごろは寿命が延びて、平均72才までは生きられるようになつた。72才まで生きられるにしても計算してみるとあとわずか、これは大へんだと思ひ72才を一日24時間にあてはめてみたら、36才がお昼、57才は19時、わしの人生が暮れてしまつて、大事なところは燃えてしまつて、わずかにもえさしが残つてゐるに過ぎない。これは大へんだ、今までのような人生の過ごし方をやつたのでは、わずかに残つてゐるもえさしまでだめにしまつた。今日から思いを新たにしてもえさしの人生を大事にしようと思う。そのために、この文集を作つた。」と書いてゐています。

私も大急ぎで計算してみたら午後7時、やっぱりもえさした。そう思つててもたつてもおれないものですから、その問題に応えてくれそうな書物を手あたり次第に読みあさりました。そして、行きあつたのが、あの「若き命の日記」という本でした。骨肉腫という病に昌され余命いくばくもない若き大島道子はこう書いています。

「病院の外に、ただの三日でいいから健康な日を私にください。一日目、私はとんで故郷に帰りましょう。そして、おじいちゃんの肩をたたいてあげて、母と台所に立ちましょう。父に

熱燭を1本つけたい。おいしいサラダを作つて妹らと楽しい食卓を囲みましょう。二日目、私はとんであなたのところに行きたい。あなたと遊びたいなんて言いません。お部屋の掃除をしてあげて、ワイシャツにアイロンをかけてあげて、おいしいお料理を作つてあげたい。その代り、お別れに優しくキッスしてね。三日目、私はひとりぼっちで思い出と遊びましょう。そして静かに一日が過ぎたら、三日間の健康ありがとうございましたと笑つて永遠のねむりにつくでしょう。」

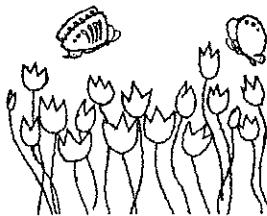
そうだった。今まで粗末に考えていたつまらなく見えていた一つ一つをもう一度、思いを新たにしてとりあげ直す以外、もえさしを大事にする道はなかつたのだ。教えられた気がしました。

そのうち、宿から学校までの200メートルの間、毎朝、今が本番、今日が本番、そんなふうにつぶやきながら出勤するのが例になりました。着きますと校長室に掲げています高村光太郎の詩を默読します。

「いくら回されても針は天極を指す」

私にとって、狂わしてならないものは何か、子どものために、私はお世話になつてゐること、子どものためにこの学校があるということ、これはどんな時にも狂わしてはならんぞと自分に言いきかせます。職員室に出向きます。先生方に「今日も子どもたちがいろいろお世話をになりますが、どうかよろしくお願ひします。」と朝の挨拶をします。子どもの伸びゆくエネルギーは、先生方が「やるぞ」ということになつてくれなければどうにもなるものではありません。先生方を信頼し、お願ひする以外手はないのです。教室を回ります。21世紀を作つて行く子どもたちが挨拶をしてくれます。子どもの頭に手をおくと小さな一年生の頭の熱っぽさが、

もえさしのやせた腕に伝わってきます。21世紀を作つていく熱っぽいエネルギーが伝わってくると思うと何というすばらしい幸せだろうと思うのです。そこに私の生きかいのすべてがありました。

出会いを
もっと大切に

世の中が忙しくなつたせいか、この人間の出会いが粗末になつてゐるよう思います。

四年ばかり前の夏、棟方志功先生と一緒に日本の版画の仕事をなさつてきた長谷川富三郎先生がご本を送つてくださいました。その中に、「あなたは毎日食べている御飯の茶わんの模様が言えますか。」とありました。はてな、わしの茶わんの模様はどんなだったかな。毎日いただいているご飯の茶わんの模様が思いだせないのです。家内に「お前のご飯茶わんの模様をちょっと言ってみい。」と申したら、「さあ。」亭主がぼんやりだと、女房もぼんやりしている。毎日キスしていながら相手の模様がいえない。こんな何とはなしの粗末な出会いを茶わんは許してくれますが、人間との出会いもこんなことになつてしまつてゐるよう思えます。

やはり、その年の三月、熊本県の八代に出かけた時、八代の町にえらい先生がおられました。いっしょに泊めてもらいましたが、この先生3時になると、ぱっと起きて、正座合掌をされてゐるのです。私は目は覚めましたが恥ずかしくなつて床の中でもぞもぞやつてました。

「東井先生、目をさましておいでのようですが、うつ伏せになつてください。」

おっしゃるのでうつ伏せになりますと、
「これからあなたの足の裏をもませてもらいます。」

「結構です。先生のように偉い人に足の裏なんかもんでもらうと腫れてしまつます。」

「東井先生は偉そうにいうても、奥さんの足の裏をもんだことはないでしょう。」

「はい、ありません。」

「明日、お帰りになつたら一度奥さんの足の裏を揉んで、それからもんであげなさい。」

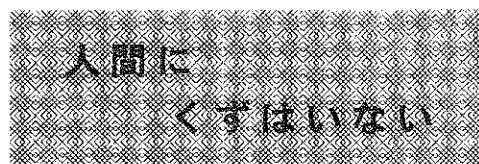
あくる日、家に帰つたのが夜中の1時すぎ、まだ寝ずに待つてくれていた家内に、「お前、座敷にうつ伏せにねつてくれ。」家内は妙な顔してうつ伏せになりました。「これからお前の足の裏をもませてもらう。」

こんな足、揉むねうちあるのかなと思ひながら、足袋をぬがしたらギョツとしました。家内をもらつて38年め、足の裏をみたのは初めてです。町の寺の娘に生まれて大事に育てられた家内でしたから、うちに来た時はもうちょっとかわいらしい足の裏をしていたに違ひないのです。それが山奥に来て毎日けわしい山道を薪を背負い、畑を耕し、指先に力を入れ踏みしめふみしめ30数年歩いているうちにこんなになつたのではないかと思いました。気がついてみたら本気で手を合わせていました。初めて本当の家内に出会つた気がしたのです。

いつも出会つているつもりの女房とさえも本当に出会つていなかつたということを知らされたのです。

こんなことを申しあげたのは、先生方が毎日出会つてくださつてゐる子どもとの出会いをご検討いただきたかったからです。顔と顔とが出会つてゐる。そんなのは出会いの中には入りません。その子しか持たないピカッと光つたものをもつてゐる。それによつてやれば、子どもはみんな、ああ自分の光をみてくれる人ができたということで、「やるぞ。」と伸びずにはおれなくなつてくる。これが出会いだと思うのです。





東京の金沢嘉市さんが「人間に届くのはない」という書物を書いていますが、本当に人間に届くのはないと思います。

ここに「遺愛集」という本をもって参りました。これを書いた島昭人さんは、学校では最低の、できの悪いまらぬ奴だとバカにされ、自分もそう思いこみ、少年院に送りこまれたり出されたりするうちに、昭和30年の春の雨のある晩、おなかがすいてたまらず、一軒の農家に押入り2,000円を奪い、家族と争いその奥さんを殺してしまいました。そして、昭和42年11月2日の朝、死刑になっていった方です。

牢の中で、小・中学校を通して、ただ一人自分の絵を「絵はへたくそだけれども、構図はお前のが一番いいぞ。」とほめてくれた美術の先生がなつかしく思いだされ、獄中から手紙をかきました。「……なんのとりえもないぼくですが、先生のことばを胸の中に大切に、最期の日を迎えるたいと思います。」

名前も覚えてもらっていないと思っていた先生、先生の奥さんからも返事がきました。奥さんの手紙の中には、島さんが育った新潟柏崎市のことを詠んだ短歌が三首ばかり書きそえられていたそうです。ふるさとが懐しくなり、自分も歌がよみたくなり、次々に歌がうまれてくるのです。

・たまわりし処刑日までの命なり心素直に生きねばならぬ。

尊い命を奪ったのだから当然と死刑の覚悟を決めたのでしょうか。しかし、

・被害者に詫びて死刑を受くべしと思うに空は青く生きたし、

青く澄みきった空を見たら、やはり死にたくない。生きるってすばらしいことだなあ、人間として生きられないなら虫けらになってでも生き延びさせてほしいなあと悩んだようです。

お菓子をもらってあげる人もなく、蟻なら

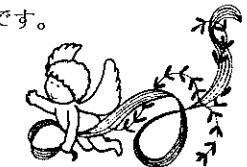
食べてくれるだろうと土の上において、
・死刑囚の菓子を蟻が食べてくれる食べてくれる。

という感動がうたわれました。

何よりもつらかったのは、折角人間に生まれさせてもらいながら、人を殺し、何の役にも立たず終わるという終わり方、一つぐらい世の中の為になってから殺してほしいという願いであったのでしょう。せっかくのいい思いつきも悲しみにかわってしまいます。

・世の中のためになりて死にたし死刑囚の眼はもらいてもなきかもしれません。

こうして島さんは、最後の晩に夜通しお世話になった方々に感謝の手紙を書き続け、みごとに死んでいっているのです。こんなに人間らしい心、こんな歌がうまれてくる可能性ももっていたのです。この美術のような先生がもっと沢山いて、めぐり会いがあったならすばらしい人生を開いていたかもしれない。なのに、島さんの人間のきらっと光ったものとはかかわりのないところで教育という仕事が行われ、授業というものが行われていた。その犠牲者が島昭人さんではないかと思うのです。子ども一人一人のきらっと光ったものに出会ってやることがなかったら、死刑囚になる可能性をみんながもっているということです。人間が人間に生まれたということは、いいかげんなことではない、すばらしいことなんだぞということに目覚めた先生方にめぐり会っていたら………そう考えますと、人間に届くのはないということばの大切さがあらためて考えさせられるのです。



子どものつぶやきの聞こえる人に

人間がどのように育っていくかについて、今日の学者の定説では5,000通りの可能性をもっ

て生まれてくるといわれています。その中からの可能性を見つけて、それに火をつけてやるか、この仕事が教師の仕事でしょう。

私の最後の学校にマサキちゃんというやんちゃら者がいました。一年生の頃から女の子の便所のぞき、家の金8,000円の持ち出しなどの事件がありました。しなさいといわれる意地になってしまい、末恐ろしいと評判の子でした。

三年になるとき井上和正という先生が担任してくれました。井上先生は、人間に届くのはないと信じきっている教師です。彼はマサキちゃんを見て、自分の子どもの頃によく似ているなと思ったそうです。手に負えない者としてではなく懐しいものとしてみてくれた、それが小さいときにいじめられてきた子には敏感に通じているのです。最初の日、この先生は違うぞと見抜いたのである。「あしたから勉強する教室きれいにして帰ろうよ。」という言葉に応じて、「先生、そんなら雑巾貸してくれ。」先生喜んで早速手紙を書きました。「マサキちゃん、見どころあるんですよ。きっといい子になりたがっているんです。」

お母さん感謝しました。それまで、非難の手紙は毎日いただきましたが、見どころあると知らせてもらったのは初めてです。

あくる日、「先生、お母ちゃん縫ってくれた。」と、雑巾開いてみてマサキちゃんびっくりしました。一がんばれ、しっかり、しっかり一と太い刺しゅうがしてあるのです。「お前、すばらしい雑巾もってるじゃないか。早う、校長先生にみてもらってこい。」校長にほめてもらうとご利益があると思ったのでしょうか。

「そんな雑巾ねってくれるお母ちゃん、えらいな。世界中探してもありはしないぞ。いい子にならんかったらあかんわい。」

それからマサキちゃんは自分の席について勉強はじめました。お掃除もがんばりはじめました。

励ましは大切ですね。がんばることの値うちを知って励ます先生と、その先生の姿に感動し、応えてくれたお母さんの心と心の出会いですね。

私は、新しい学年が始まるとき、知恵遅れの子

と、一年生の担任は誰にお願いしょうかな、学校でいちばん耳の大きい先生、子どものつぶやきをきいてくれる先生はどなたかなと考えます。

ある年の6月ごろ、こんなことがありました。

「校長先生、私は一年生担任の資格はありません。途中でわるいですけど担任をかけてください。」「どうしたんですか。」と聞きますと、次のようなことでした。

入学以来一ぺんもものを言ったことのないおとなしい女の子が、だまって先生の机の上に花を置いていった。その朝は他の子も次々に花を持ってきていた。先生は特に美しいのだけを花瓶にいけて残りはバケツに入れておいた。

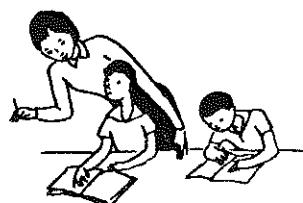
「お母ちゃん、先生は、きょうもたててくれなかった。……きょうもたててくれなかった。」一週間ほどして、バケツの花は捨てられた。

お母さんとしては、うちの子の花もちょっとでいいから立ててもらいたかったのです。

「校長先生、あの子が折角芽を出そうとしていたのに、取り返しのつかないことをしました。一年生担任の資格はございません。」と、懇願されるその先生に私は言いました。

「仏様は、言葉を持たぬ虫けらのつぶやきでもお聞きになるそうです。これは人間にはむずかしいことです。ただ人間にとて大事なことは、子どものつぶやきを聞きもらした時に、それをいても立てもいられないほど真剣な問題にしていくことです。その点、ぼくは逆立ちしてもあなたにかなわない。それがあなたの値うちです。どうか、その気持ちで子どものつぶやきを聞いてください。」と。

みなさん、どうぞ大事に、子どもたちの言葉にならない言葉を聞いてやってくださいね。



子どもをばかには 育てるまい

自由や解放が今や、欲望や衝動のどれいになってしまっています。どんな欲望にしても、否定することはできません。しかし、教育は主人公を育てようではありませんか。

犬や猫は大きくなることを成長といいますが、人間は自律の力が育っていかなければ成長とはいえない。私は考えています。子どもが大きくなればなるほどだめになる。これが教育でしょうか。自律の力がどう育っているかをみるのは、テレビの見方をみれば判然とします。スイッチはみるためのもの、切るためのものですから。

ある中学校で「ばかにはなるまい」という題話をしました。「どんな者をバカだと思うか」ときいたら、女の子が「勉強のできない人」と答えた。そういう考え方もあるけど、勉強のできない人の中にも賢い人がいるんだといって、中学生の精薄の人の詩をよみました。

「私は一本のろうそくです。もえつきてしまうまで何か一ついいことがしたい。」

人の心に喜びの灯をともしてから死にたい少々、勉強がなくてもばかがいる。

姫路の中3生が、学校の帰り、通せんぼをした保育園の子どもに腹をたて刺殺した。きいてみると、自分の家へ刃物を取りに帰っている。それだけの時間があるなら、やめとけ、というブレーキやハンドルのきりかえが、どうしてできないのか、こんなのはばかという。

自分の一生を自分でだめにする、これをばかという。

子ども自身に自分を大切にすること、気ままに生きるということではないんだぞ、ということを自覚させてやろうではありませんか。



させる立場から する立場へ

恵まれすぎた今日の人間には、懇切丁寧に教えてやればよいというのではありません。

のっぴきならぬ、責任のある立場にたたせる、サッて目が光ってくる。目が光らなくては、頭は働かない。頭が働かないことには伸びない。生活指導の面でも授業の中でも、子どもをさせる立場からする立場にたたせる。これは大きな課題として考えたいものです。

教育基本法の第一条に「教育は人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として」とある。形成者、つまり作っていく者を育てるこれが学校教育のめあて。しかも、第2条には「あらゆる機会に、あらゆる場所において」である。

学級経営をなさるのは先生でしょうが、子供一人一人を学級を作っていく形成者としてどういう立場に立たせるか、遠足にしても、子供に計画させ実行させる。子供をお客さんにしてしまってはいいのか。子供をする立場にたたると、生きがいに燃えてきます。形成者として位置づけるとき、子供はシャンとしてきます。運動会のときは、「交通事故をおこさない駅前地区」「お早よう、今日は八鹿地区」などというプラカードを持って行進をしました。すばらしい21世紀を作っていく子供を育てる、このめあてを忘れないようにしようではありませんか。家庭とも手を組んで、家庭を作っていく者として位置づけてやる、子どもの生きがいを見出してやらなければと思われてなりません。そのためには、授業でもさせられるのではなくする授業をみいだしていくことが何よりも肝心であります。

どの子もどの子も、人間にうまれさせてもらってよかったです、やるぞ!と、存分に、それぞれの光を放ってくれるように、そういう仕事に命をもやしていただく先生方にご期待申し上げたいと思います。

「通知表」について考える

1. なぜ、通知表を考えるか。

1980年(昭和55年)は、新学習指導要領が実施される年である。その後、中学校、高等学校とそれぞれ実施される。つまり、本年は、新しい教育の幕開けということができる。教育課程審議会は、この新しい教育の方向を次のようにあげている。

- 人間性豊かな児童・生徒を育てる
 - ゆとりのあるしかも充実した学校生活が送れるようにすること
 - 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視すると共に児童・生徒の個性や能力に応じた教育が行われるようにすること
- と述べている。これをまとめると、個人の個性や能力を尊重した人間性豊かな教育をねらっているといえる。

この様に、児童の個人を尊重した教育が強調されると学校教育の成果をどのような形で家庭に報告したものか、いろいろ考える必要が出てくる。通知表を含めた教育評価を従来、教育結果の測定及び解釈とするところ方が多かったようである。しかし、最近の教育評価のとらえ方は、指導のために教育の結果を測定し評価することとなっている。このことは、通知表が、単なるその学期の結果の報告にとどまることなく、なんらかの意味で、児童の学習に寄与できる内容を含むことが必要とされている。ここにも、通知表を再検討しなければならない事情がある。

2. 県内各地の通知表とその解釈

幸いなことに、当教育センターには、昨年(昭和54年)に県内小学校からご惠贈頂いた通知表が50数部あるので、これらを手がかりに新学習指導要領に対応する通知表の新しい方向を追求したい。

(1) 通知表の用語

用語	学校数
○ 通知表、通信表	43
○ わたしのあゆみ(含あゆみ)	5
○ 学校生活のおしらせ	5
○ 伸びゆく子ども	2
計	55

この表の結果、使いなれた用語から、父母や子どもに親しみやすい用語への変化がうかがわれる。

(2) 一校当たりの通知表の数

種類	学校数
○ 一校一種類	29
○ 一校二種類	8
○ 一校三種類	5
○ 一校六種類以上	13
計	55

前の項目で、教育課程審議会の答申が「個人の個性や能力を尊重した人間性豊かな教育をねらっている」と述べた。その線に沿うと1校1種類の通知表で、すべての児童、生徒の実態に対応することは困難であろう。また、最近、到達度評価が力説されている。この立場からも1校1種類の通知表では、表現出来ない分野が生じてくる。そのことが、表にあらわれていると思われる。(種類とは、学年ごと、学期ごと、2か月単位で異なるのをいう。)

(3) 学習状況の表現

種類	5段階	3段階
○ 教科単位のみ	22	4
○ 教科と観点別の併用	12	1
○ 観点別のみ	0	16
計	34	21

昭和42年に通知表の評定をめぐって「通知表問題」が社会問題としてマスコミで取りあげられた。そのとき、5段階の相対

評価が大きな問題になり、その後、観点別の絶対評価が話題になった。これらの揺れ

(4) 特活及び生活のようすの表現

	種類	学校数
特活	・児童会、クラブ等	9
	・学級会だけ	1
	・特活をまとめて表現	4
	・記入なし	41
小計		55
生活	・学校独自の項目による評価	25
	・指導要録の項目に準拠	14
	・目標だけ列挙	14
	・望ましい児童像の列挙	1
	・記入なし	1
小計		55

動く表記法が、上記のデータに表れているとみてよいのではなかろうか。

すでに(2)で述べた通り、児童一人ひとりを大事にした教育が特に力説されている。そういう意味では、特活や日常生活の様子の記述の工夫が必要であろう。

3. 通知表のあり方

通知表は、児童の学校生活の全般にわたって家庭に連絡する連絡簿であるが、これを教育評価の一環として考えると従来の結果の報告の他に児童の生活向上のための具体的指示が特に要求されるのではなかろうか。

(所員 角田研三)

国土地理院の二・五万分の一の地図で、佐賀平野や柳川地方を見ると、津、古賀、牟田、島、江といった地名が数多く目につく。しかも、これらの地名は海拔5m以下の低地に多く、佐賀平野の無数のクリークの分布と一致する。

「津」は船着き場のことであり、「牟田」はかつて低湿田で二毛作の出来なかつた土地である。また「古賀」は「空閑」とも書き、大化の革新(六四五年)当時班田収穫の法によつて口分田を割当てた際、かんがい用水の不足や、排水が悪いため、口分田の対象とならなかつた土地であるといわれている。

「江」は満潮時、潮水が押しあがてくる「江湖」近くの土地と思われる。さらに「島」は大潮の時など海底から顔を出し、小高く盛り上つた潟や、川口の洲によつて生まれた地名と考えられる。

このような地名の分布状態からも、等高線5mの線が大昔の海岸線であり、長い年月を経て自然陸地化し、開発が進められてきたことが容易にうなづかれる。また、これらの土地に多く見られる「新田」「新村」「郷」「移」といった地名からは、アシ原を開墾し続けた先人の息吹さえ感じられる。

これらの身近かな事例を社会科の授業などで取り上げると、小学校中学年ぐらいの子どもでも目を輝かせ、大いに意欲をかきたてることは、よく経験するところである。また、「条」「里」といった条里制の名残りを示す地名や「郎」「丸」という名田村の地名からは、子どもにとつて遠い存在の歴史を身近に感じさせる。殊に干拓地の「カラミ」や「コモリ」の地名からは干拓民の辛苦、完成の喜びと期待、災害への不安等がしかに感じられ、先人の働きを情感にまで訴えて理解できる絶好の素材である。

まさに地名は、貴重な文化遺産であるといわれるゆえんである。

(研修二課長)

谷島俊四郎

夏休みあけの教育相談を

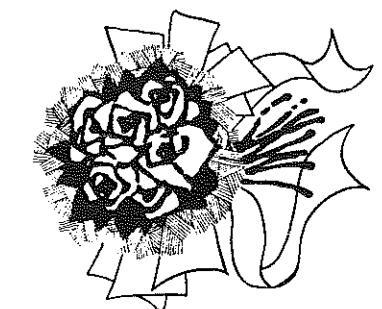
夏休みも終りました。子どもたちは、それぞれの想いを胸に、登校してきます。

その想いは、またさまざまな体験にいろいろな所であります。だから、夏休み前と比べると、注意深く観察すると、何かしら変化を感じられる(児童生徒)子ども達がおります。

それらの体験や変化の主なものを挙げると次のように大別できましょう。

1. 注意転動、落ちつきがない。(小・中学校)
 2. 多動になった。(小学校)
 3. 孤立、沈みこみがち。(小・中・高)
 4. 登校拒否の兆候がある。(小・中・高)
 5. 意学傾向がでた。(小・中・高)
 6. 非行傾向がでた。(小・中・高)
 7. 神経症的傾向がでた。(小・中・高)
- 例、夜尿児が、夏休みに治って、二学期に入って再発するケースなど。
- 以上のものを観察し、発見するには、次のチェックポイントが、良いでしょう。
1. 学習状況はどうか。(宿題も含めて)
 2. 服装、所持品は、おかしくないか。
 3. 態度や言葉づかいはどうか。
 4. 雰囲気はどうか。
 5. 交友関係はどうか。
 6. 家庭の変化は無いか。
- しかし、悪い面ばかりではありません。夏休み中に得た体験が、良い傾向を示す場合が、むしろ多いものです。
1. 落ちついている。
 2. 伸び伸びと、明朗になった。
 3. 対人関係が好転した。(思いやりなど)
 4. 活動的、積極的になった。
 5. 健康で、たくましくなった。
 6. 登校拒否児が、登校してきた。
 7. 縊黙児が、表現の気配をみせた。
 8. 意学、非行児が、接近してきた。
- などは、大切にし、教師が、ちゃんと受けとめていく事が大切です。
- これら、良い面、悪い面、それぞれのより深い所に視点をあてると、次の要因が指摘できるようです。
1. 社会体験
(例) アルバイト、旅行、近隣行事への参加、親類とのつきあい、海水浴、登山など。
 2. 交友体験
(例) 异性、同性交友、学校校区外の交友体験など。
 3. 家庭内体験
(例) 母子関係、父子関係の体験、同胞関係体験、その他
 4. 学習体験
(例) 予習や復習について、自由研究について、議題研究について、進歩補充について、塾の学習、けい古ごと、など。
 5. 健康、安全の体験
(例) レクリエーション体験、社会体育参加、健康増進の企画への参加、事故体験、など。
- そこで、二学期に、まず、実態は握と子ども理解のために、生徒指導活動として、次の事はぜひ、早目に実行したいものです。
1. 全校被害調査
 2. 家庭変動調査
 3. 夏休みの反省や夏休み生活記録等の作文。
 4. 学習状況調査(夏休み宿題提出も含める)
 5. 必要に応じて、家庭連絡をする。
 6. 観察記録(言葉、態度、服装、雰囲気)
 7. アルバイト調査
 8. 旅行、外泊、社会行事参加の調査。
 9. その他(心理テストなど)
- さらに、平行して、全校教育相談期間を設け教育相談を実施することが大切です。
- ねらいは、
1. 長期休業中、ともすれば疎遠になりがちだった、教師と子どもたちとのラポート回復。

2. 早期発見、早期治療の糸口をつかむ。
 3. 学級（ホームルーム）の雰囲気を、意欲的、積極的なものに方向づける。
 4. 一過性非行児や感染性非行初期の子どもたちへの抑制などの予防機能。などです。留意点としては、次の事項があげられます。
 1. 全生徒（児童）に及ぶ面接なので、短時間（10分～20分）に限定されるから、深まりより、雰囲気や問題の所在を、感じとる程度に止める。そして、特に必要を感じた者をチェックして、後刻、じっくりと面接するようとする。
 2. 質問や詰問調、説教調、誘導訊問調は避けて、包みこむような感じの雰囲気で面接を進める。特に問題児への対し方には、それが出やすい。警戒させてしまい、後の深い面接が成立しなくなる。
 3. 学期初めは、何かと多忙で、教師自身、追いたてられる様な気分になるが、それが微妙に、面接に影響する。生徒（児童）は敏感で、ゆったりできない面接では、おざなりの態度がでやすくなる。
 4. 後日の深い面接では、前記の観察や調査では握したことに焦点を当てつつ、時間をかけ回数も増やして、面接を継続することが大切である。カウンセリングや、プレイセラピー、描画療法、自律訓練法、内観法など、その生徒（児童）に適した方法を考える。
 5. 生徒（児童）のかかえている問題の質や深さによっては、専門機関との連携を考えることも、教師の責任の一つである。責任感のあまりであろうか、教師が、かかえこみ過ぎて、こじれてしまい悪化させて、専門機関に持ちこむケースが見られるのである。
 6. 上記1. から、家庭訪問も早急に実施することを考えなくてはならない。
 7. 養護の先生と連携をとることも大切である。校内の疾病の専門家であると同時に、児童（生徒）が、本音を出しやすい唯一の存在である。
- また、次の様なことも、学級（ホームルーム）



の中で、学期初めに取りあげてみるのもおもしろいと思われます。

1. 集団心理療法の一つである。グループアプローチの手法を、学級レクリエーションとして取り入れてみる。

- (例)
- Who are you ゲーム
 - 握りかごゲーム
 - 胴上げゲーム
 - その他いろいろ

2. 心理劇の導入
3. 自律訓練法を、学級（ホームルーム）、一斉に授業の初めなどに実施する。

4. 小学校低学年（幼稚園）では、フィンガーペイントや、ボディペイントを授業の中で取り上げてみる。

5. パウム・テストや描画テスト・その他の性格テスト等を実施してみる。

夏休みを契機として、9月～10月にいろいろ（反社会的、非社会的）問題が多発することは、承知の通りです。しかし、早期に敏感にキャッチし、掘りさげ、理解し、真実（独断、独善でなく）を知り、適切に、多面的、継続的にアプローチしていけば、大事に至らないということが、経験的に云えます。

学期初めの多忙さという現実も、教師の中に、一人一人の児童・生徒の教育ということを、常に中心に据えていれば、おのずから、克服できるものではないでしょうか。

（所員 服巻清之）

8月31日で、本年度の研修講座69講座のうち、ほぼ65%の44講座を終えたが、幼小、中、高校の1,500名を上回る先生方に受講をいただくことができたことは、大きな喜びである。

特に、小学校国語や小学校算数、小学校学級経営では、定員を2～4倍も上回る申込みをいただき、いわゆる「うれしい悲鳴」であった。

また、各講座の受講の先生方は、非常に熱心で、私ども所員には、なによりの有難いはげみであった。

ここに、熱心な研修の姿の一端を、受講者の感想からそのまま御紹介したい。

○ 固定した発想でなく、へき地だからこそやれる自由な発想でおもいきりやれ、と言われたことが、自分の中に今まであって、もやもやしたもののが、ふっけられたことです。あたってくだけの気持ちでやっていきたい。（へき地教育講座 23歳 女）

○ 希望者の多い研修会に出席させていただき充実感を覚える3日間でした。研修の内容の他に同業者の集まりは得る所多く楽しみです。来年もイスが空けば、いや空いていなくてもどうぞ参加させていただきたいと思います。（中学校英語指導法講座 36歳 女）

○ 日頃、自分の型にはまり込んでしまって柔軟な考え方が出来ずにいたので目の前が明るくなったような気分で、2学期からの授業にとり組めると思います。初めての研修センターでの経験でした。相当、頭も脳もコチコチになってしまってますが頭の体操ができる幸いでした。

（高校英語講座（指導法） 39歳 女）（所員 永原三千）



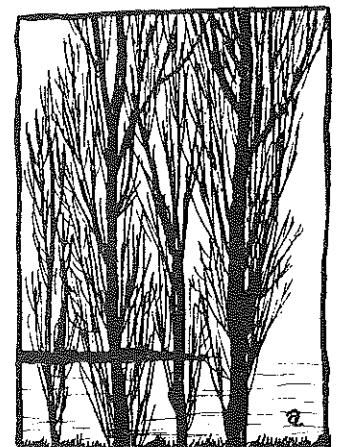
○ 幼稚園で子どもたちに精一杯ぶつかってきた筈でしたが、研修にきて、しらずしらずのうちに視野の狭い人間になっていたようで反省させられます。自分自身の向上と子どものために、保育に専念したいと力が湧いてきました。三日間、お世話していただき有り難うございました。（幼稚園教育実技講座 20歳 女）

○ 一時間一時間の授業がどんなに大切か改めて感じさせられた。ひとつの教材を5、6人でいっしょに話し合って深めていくと、今まで自分が気付きもしない点に気付かせられる。教材は、教師が深く読み味わってから授業を進めていかないと子どもはついてこない。

（小学校国語（読解）講座 25歳 女）

○ 明日からの教育にすぐ役立つ講座であり、実践をふんだんに東井先生のお話など非常に感銘を受けました。子どもを見る目がかわりそうです。自由に話し合える2日目のアイディア案つくりもよかったです。

センターの講座ときくだけで、何となく固い大学の講義を想像し自分から希望は、あまりしたくない気持ちでしたが、今回初めて参加できることを喜んでおります。（小学校学級経営講座 42歳 女）





中学校での大縮尺図の読図指導のポイント

社会科の学習で取り扱う地図は、小学校の下学年での絵地図にはじまり、自分たちの市（町村）を中心とする鳥かん図や地図、上學年での自分たちの県、日本や世界の一般図、主題図へと拡大していく。

中学校へ進むと、地理的分野の「身近な地域」の学習のなかで、野外の観察や調査と関連づけて、縮尺の大きい地図が使用される。大縮尺図で入手が容易なものは、建設省国土地理院発行の2.5万分の1及び5万分の1地形図であろう。ここでは、これらの地形図を読ませる指導について考えてみたい。

ところで、「地形図を読む」とは、どういうことだろうか。地形図にはさまざまな土地のようすが記されているが、次の4点にしぼることができよう。

- 地図を見て、大地のようす（高低、傾斜、平坦）が大まかに把握できる。
- 地図上で距離・面積・方位を測定、または実測した結果を地図上で確認できる。
- 地図記号から、地表の事物（土地利用・建造物等）のようすを説明することができる。
- 以上のことと総合して、地域の特色を推論することができる。

1. 地形の読みとり

地形図では、土地の起伏の状態を等高線であらわす。等高線について次のことを理解させよう。

○ 等高線の種類

等高線の間隔	
5万分の1	2.5万分の1
計曲線	100m
主曲線	20
間曲線	10
助曲線	5
	2.5

——太い実線
——細い実線
——長い破線
----短い破線

○ 等高線から垂直断面図をつくろう。

身近かな地域の山や扇状地などの垂直断面図をつくり、実際の景観と比較させよう。これにより、等高線の疎密と傾斜の関係を理解させることができる。

2. 距離・面積・方位の測定

実際の距離や面積が地図上でどのようにあらわされるかは、縮尺とかかわりがある。縮尺は距離の縮小の割合で、距離尺を併記されているのが普通である。

- 距離 たとえば実長1.500mは5万分の1地形図で何cmで表されるか、(1.500m ÷ 5万 = 3cm) また、自宅と学校の距離を地図から求めるなどの作業を取り入れたい。
- 面積 生徒が居住する市（町村）の面積を5万分の1地形図で求める場合、方眼用紙を使い地図上での面積を出し、それを(5万)²倍することを指導したい。
- 方位 小学校では8方位でじゅうぶんであるが、中学校では16方位で取扱いたい。

3. 地表の事物の理解

地表の事物は各種の記号を用いて表現されるが、必要なものは誇張され、不要なものは省略されることも指導しよう。

○ 地図記号の指導

作業学習を通して記号は理解されていくが、さらに記号の由来を説明すれば効果的である。

- 例 営林署 木の象形文字
 銀行 天坪計りの分銅の形

○ 土地利用図の作成

地図記号にしたがって着色し土地利用図を作成することは、地形を理解するうえで効果的である。さらに、その土地利用図を使って野外観察をし、地図と比較させ、その変化に気づかせることが大切であろう。

4. 地域の特性を考える

地形や土地利用、道路網・集落等のようすを総合して、そこで人々の生活を考えることで地域の特色が理解される。また、新旧2枚の地形図を対比しながら、土地利用の変化や道路網の発達、市街地の拡大などに注目させ、その理由を考えることで、地理的見方や考え方を育っていくものであろう。（所員 白川 武人）

英語指導の着眼点

内外の情勢の変化や指導要領の改訂に併い、英語指導のあり方が大きな変換期に来ているわけですが、意欲を高めるためにいろいろ工夫されている先生、手先だけでなく、からだで教えて、からだで学ばせるという先生、多忙な中にも「継続が最大の力なり」と毎日ノートの点検や課外の個人指導に当っておられる先生、聴力障害者と取り組む先生の苦心等々、皆さんそれぞれの立場で大変努力しておられることがセンターの講座でもわかり、改めて敬意を表したい気持ちです。

「英語指導の着眼点」というテーマになっていますが、この講座で提起された問題（興味・関心・動機づけ、学力差、課題、機器利用に関する問題点）の中から、「英語学習に興味・関心がない。動機づけをどうしたらよいか」ということについて、考えてみたいと思います。

1. 生徒を知る

諸種の適応性検査や学力テスト等で、生徒の能力・適性・学力等を知ることももちろん大事ですが、まず生徒の氏名を完全に覚えることから始まると思います。広島大附属高校の田鍋先生は、はじめての授業に臨む時は前もってクラス担任から生徒の氏名の呼び方をきいておき、特に変った呼び名など正確に呼んでみせることも大変大事なことだと言っておられます。2・3年生になれば、英語による自己紹介や他人紹介という形でも正確な呼び名を知ることはできますが、いずれにしても、先生が私の名前を知っておられるということは、生徒が自分の存在を認められているということであり、そこから授業への参加意識が起り、興味・関心も出てくるでしょう。

一斉授業の形ではあっても、目指すところは個人指導になります。生徒の性格・興味・関心事、家庭環境、好き嫌い、クラブ、その他でき

るだけ多くのことについて知っている先生なら授業中の発問や導入等においても、個々の生徒に合った最も活気のある、生徒をひきつける授業ができるでしょう。

人には胃が強い人・弱い人、また脚の速い人・遅い人など、それぞれの個人差があります。胃の弱い人には胃薬を与えたり、食事の内容や方法を変えたりしなければいけません。胃が弱いからといってあまり消化の良いものばかり食べさせては過保護になって胃は強くはならないでしょう。時にはあまり消化の良くないものも食べて胃を鍛えることも大事だと思います。英語の学習もこれと同じです。易しい内容ばかりでは、できる生徒は満足しないでしょうし、飽きてくるでしょう。臨床医学の立場に立って生徒を種々の方法で診断し（生徒を知り）、それに合った処方をする（指導をする）ことがひとりひとりを伸ばすことになります。

たとえ英語のペーパーテストの成績は悪くても、hearingの力はかなりあるとか、単語の繰りは覚えてなくても正しく発音できるとか、文字を書すのならだれにも負けないくらいのきれいな字を書くなど、だれでも一つぐらいは良い所がある筈です。英語の力を総合して評価するのでなく、細分化して生徒に何か得意などころを見つけてやり、授業のそれぞれの場面での良さを取りあげてやることが必要です。それが生徒に満足感を与える、興味→自主的勉強へつながっています。

2. 過保護にしない

心配していいねいに教えすぎることがよくあります。これでは教師中心の授業になり、生徒の主体性は育ちません。時には説明はひかえめにして、生徒に考えさせ、発見の喜びを味わえることが大切です。生徒に問題意識をもたせ、学習への機能的な姿勢をとらせることです。

3. 完全主義をなくす

日本人の英会話が特に不得手であるのは、間違いを恐れる完全主義の賜(?)であることは容易に察せられます。小さな間違いはおおめにみてやり、生徒のつまずきは先生のつまずきであるという意識を常に持つことが大切です。小さな間違いを厳しくチェックすることは、生徒を消極的にし、ひいては反応しなくなるでしょう。もちろん間違った箇所はやさしく、すぐ正しく訂正してやることも必要です。機械ではできない人間的反応—情意的KR情報を与えてやることです。(生徒の活動をまずやさしく、にこにこと受け入れてやる、生徒の活動に感動する等。ことばだけでなく、身振り、手振り、表情で反応してやることです。)

テスト等でのall or nothingでは自信のないものは全然書かないという結果を生みます。特に下位生徒の場合には単語一つでもいいから何なりと書いてみようという気持を起こさせるような方法をとりましょう。部分点を与えることは彼らにとって大きな喜びと勇気となることでしょう。

テストを易しくして成就の喜びを与えることも必要です。本県の昭和52年度の実態調査でも「テストの成績が悪いから英語は嫌い」というのが中学・高校とも第3位になっています。テストの難易度をどうするかについても改めて考えてみましょう。

テストは○×と点数だけでなく、時には一言のコメントを記入してやることが、生徒にとっていかに大きな刺激になるかも心得ておくべきでしょう。採点を早くするために、点数等や雑になりがちですが、「良い点でも雑に書かれている時は意欲がなくなる」と生徒が言っていました。

新出語など習った単語全部を覚えさせる必要もないでしょう。どれを精選するかは先生次第になりますが、最少限必要と思われるものをまず完全に覚えさせることです。そして生徒がどんな単語を、どんな表現のしかたを知りだっているかを調査してみるのも有意義なことです。

関心のある単語や表現法なら少々むずかしく

てもよく覚えるものです。

ならっていない単語でも必要に応じて使ってみましょう。ならっていない単語を一語使ったために教室での活動がいかにいきいきとなったかというような経験はだれにもあることと思います。

4. 英語の先生である前に、まず「先生」であること

先生と生徒との相互信頼がなければ教育はなり立たないことは言うまでもありません。手先の器用さだけで指導できるものではなく、まず生徒に好かれる先生でありたいと思います。ある調査によれば「先生が好きだから英語も好きになった」というのが32%にもおよんでいます。

指導技術そのものよりも、情熱をもってまじめに努力される、そんな先生の後姿に生徒は引かれるものです。ある生徒の授業態度が急に変った(良くなかった)ことがあります。なぜだろうと思ってその生徒にきいてみると、次のように言いました。「先生が放課後教室で黒板にいろいろ書いて授業の練習をされている所をこっそり見たからです。」

teacherやinstructorではなく *
educatorでありたいものです。

(所員 力武 晃)

